

虎ノ門にベンチャー拠点タワー 森ビル

2016年4月14日
朝日新聞

森ビルは13日、東京都心の「虎ノ門ヒルズ」に、高層ビル3棟を新たに建てる計画を発表した。完成は2022年度を予定している。起業家を支援する「イノベーションセンター」を設けるなどして、ベンチャー企業の拠点化をめざす。

約3千平方メートルのイノベーションセンターは、森タワーの北側に建てる「ビジネスタワー（仮称）」（地上36階、19年度完成）に置く。事務所を持つ前の起業家が仕事をするスペースや、起業家と大企業の関係者が交流するサロンを設ける。600戸のマンションが入る「レジデンシャルタワー（同）」（同56階、19年度完成）には、子育て支援施設も設ける。

オフィスビル「ステーションタワー（同）」（階数未定、22年度完成）の最上部には、交流施設をつくる。3棟の開発の総事業費は約4千億円。

03年に開業した六本木ヒルズには、成功したベンチャー企業がたくさん入居している。辻慎吾社長は、「海外に

向けても、新たなビジネスやイノベーション（技術革新）の発信拠点にしていきたい」と話した。（藤崎麻里）



虎ノ門ヒルズ森タワー（中央ビル群の左から二つ目）の周りに新たに3棟のビルが立ち並ぶ予定だ＝完成イメージ、森ビル提供

仮称）
虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー



国際水準の大規模オフィスビルとイノベーションセンターの開設

虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーは36階建て、グローバルレベルの大規模オフィスと商業施設を持つオフィスタワーです。

日比谷線虎ノ門新駅（仮称）や既存の銀座線虎ノ門駅とも連結。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、晴海地区の選手村と各スタジアムや都心と湾岸部の競技場を結び、選手や観客の移動に活躍する交通拠点となります。現在、虎ノ門一丁目地区市街地再開発組合が事業を推進しています。

低層部（イメージ）



イノベーションセンター（イメージ）

虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーは、36階建て、約94,000㎡のグローバルレベルの大規模オフィス、約6,300㎡の商業施設を中心としたプロジェクトです。

日比谷線虎ノ門新駅（仮称）や既存の銀座線虎ノ門駅とも連結。また1階には、都心と臨海を結ぶBRTや、空港リムジンバスも発着可能な約1,000㎡のバスターミナルを設置し、世界と都心を繋ぐ「東京の玄関口」として機能します。

4階には、約3,000㎡のイノベーションセンターを開設、大企業とベンチャーの交流拠点を整備します。施設内には、起業家や大企業のエグゼクティブが集うサロンやイノベーターを育成するイベントスペース等を設け、新たなビジネスの創出を支援します。